

情勢報告（平成27年6月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

シシトウの収量アップを目指して ～管内3町で現地検討会を開催～



熱心に説明を受ける農家の人たち

J A土佐れいほく園芸部シシトウ部会は、5月19～21日にかけて、大豊・本山・土佐町それぞれの農家ほ場で現地検討会を開催し、計33戸の生産者が参加しました。

普及所からは、定植後および栽培初期の灌水・追肥の方法、病虫害対策について説明し、土壌溶液分析、天敵利用の推進を行いました。また、現地ほ場のシシトウ株を活用し、誘引・整枝方法の実演を行いました。

参加農家からは、「土壌溶液分析に取り組みたい。」「バンカー植物に付く天敵と害虫について知りたい。」といった声が出るなど、活発な情報交換がなされました。

飼料用稲の品種試験始まる。



品種比較実証ほでの植え付け

5月28日、土佐町で飼料用稲の品種比較実証ほの植え付けを行いました。今回は収穫時期の異なる専用品種（飼料米・WCS兼用）と地域で栽培されている‘アキツホ’‘ヒノヒカリ’を対照に、普及所とJAが生育及び収量調査を行うものです。

実証ほの調査状況や結果については、水稻栽培生産者や畜産農家、市町村等関係者に対して情報提供を行い、地域での今後の水稻栽培の方向性の参考にしてもらうようにしています。

ハウレンソウの生産拡大に向けて ～現地検討会を開催～



現地検討会の様子

J A土佐れいほく園芸部ハウレンソウ部会は、6月11日に生産者7名が参加し、現地検討会を大豊町の実証ほで開催しました。

実証ほでは、年間作付回数を増やし生産拡大につなげていくため、栽培管理や収穫方法の改善による効率的な栽培体系の確立に取り組んでいます。

普及所からは、実証ほの状況や今後の栽培管理について説明しました。参加農家からは「効率的な栽培を行うには生育を揃える水管理が重要だ。」といった声が出るなど活発な情報交換を行うことができました。

鳥獣害対策に取り組む ～大川村～



鳥獣被害の聞き取りの様子

6月4日に JA の鳥獣害対策専門員、大川村役場職員とともに、野生鳥獣に強い高知県づくり事業の支援集落にも選ばれている大川村の4集落を巡回し、鳥獣害の被害状況の聞き取りを行いました。その結果、猿や猪の農作物被害や出没位置を確認しました。また、自動カメラを各集落に設置し、出没状況を調査することが決まりました。

今後、普及所は、関係機関と協力して、調査内容等をもとに侵入防止柵や檻での捕獲など、集落ごとに対策を進めます。